

石油に関する意見交換会を開催しました

東日本支部 長野分科会との意見交換会

日時 ⇒ 2013年9月14日(土) 13:00~15:00 (意見交換会は、15:00~16:30)
会場 ⇒ ホクト文化ホール第4会議室
参加者 ⇒ NACS 東日本支部長野分科会：男性2名、女性6名 石油連盟：2名、NACS 環境委員会：3名

長野分科会の意見交換会は、石油連盟専務理事の松井氏も参加し、石油に関する講演を、1時間程度実施した。講演では、日常生活における生活インフラとしての石油の紹介、そして、災害時の緊急インフラとしての石油について説明があり、参加者より、「生活に必要なもので、震災が起こった時の対応策などを考えると、CO2の視点だけでなく、改めて石油を見直すことができた。」という意見が出された。

本意見交換会には、長野県広域から車で参加しており、特に、ガソリンについては、なくてはならない資源として、ガソリンの価格や、ガソリンスタンドの減少など、生活に密着した資源として、意見や質問などが飛び交った。

また、ガソリンをエネルギー源とする自動車に対しては、自動車にかかる税金、長時間の運転に対する機能の充実化や、必要な機能のみに特化したダウンサイジングなど本体価格や税金の配慮まで、幅広い内容となった。



